

平成 30 年度事業計画

晴見保育園

昭和 41 (1966) 年 7 月	認可開設
昭和 60 (1985) 年 4 月	増改築
平成 29 (2017) 年 5 月	外壁塗装
定員	80 名

1 基本方針

- (1) 園児の安全と健康を保持し、家庭的な保育環境の中で粘り強く心豊かな子に育てる。
- (2) 地域子育て支援の充実と定着を図る。
- (3) 保育力をスキルアップさせるとともに、情報の共有化を図り指導体制の強化を図る。
- (4) 予算の効率的、かつ適正な執行に努めるとともに、改築に向けての資金積立を計画的に行う。

2 重点目標

- (1) 保育内容の充実
- (2) 地域子育て支援の充実と定着
- (3) 保育の質の向上を目的とした研修の実施
- (4) ICT化（保育業務支援）の充実強化
- (5) 計画的な保育環境の整備

3 実施計画

(1) 保育内容

- ア 毎朝実施している「体操」「音楽」を確実にを行い、柔軟性や表現力、創造力を高める。
- イ 今年度も継続して、近隣の中・高・大学の協力を得て、農業体験、面白実験、面白昆虫ふれあい・動物の触合い体験等を通して、自然に対する興味関心を喚起し集中力を育む。
- エ 農業体験を通して、自然とふれあい収穫する喜びや食べることへの関心を高めるとともに、自分で調理することの楽しさを味わう。また、食育指導の充実を図る。
- オ 晴見文庫（絵本の貸出）を活用し、父母による読み聞かせを通して本に親しむ機会を増やす。
- カ 園外保育を通して体力の向上を図るとともに、四季の移り変わりを体験させ、豊かな情操を育む。園外保育指導内容の整備と充実を図る。
- キ 隣接する老人施設のお年寄りとの交流を通して、人を思いやる気持ちを育てる。

(2) 保健衛生

- ア 乳幼児突然死症候群（SIDS）の防止対策として、0 歳児には体動モニターの整備を検討するとともに、他クラスについても適宜適切に実施する。
- イ アナフィラキシー（アレルギーショック）、吐物処理、及び救命救急

に関する必要事項を熟知するとともに、迅速かつ適正な対応を身に付ける。

ウ 緊急時の対応等における連携体制のさらなる充実強化を図る。

エ 事故防止を徹底するため、「ヒヤリハット」ハザードマップを活用して、「ヒヤリハット」件数の減少に努める。

(3) 防災と安全対策

ア 毎月、確実に具体的な場面を想定し、専門的な機関とも連携して避難訓練、消火訓練を実施するほか、安全確保のための交通訓練を行う。

イ 耐震、防災・防犯関係設備の点検を行い、補強、補修等行う。

ウ クラスごとに定期的に安全点検を実施する。

エ 不審者への対応訓練を引き続き実施する。

(4) 地域子育て支援事業

ア 近年、気になる子ども、手のかかる子どもの入所が増加してきていることから、一時保育の充実のために、受け入れる園児の年齢・人数などを考慮して、きめ細かな対応を行う。

イ 保護者に園児を引き渡す際に実施している「一日保育面談」の定着を図る。

ウ 出産を迎える親の保育所体験、乳幼児の救急救命講座等、地域子育て支援活動を積極的に展開する。

エ 育児講座を職員研修の場として公開し、地域子育て支援事業の認識を深める。

(5) 指導体制

ア 発達基礎講座研修への参加、他園との交流研修、外部指導者を招いての定期的な保育実践研修などを通して保育力のスキルアップを図る。

イ 企画事務会議、クラスリーダー会議の定着充実化を図る。

ウ キャリアパス研修の整備を図る。

エ 引き続き巡回指導員によるケースカンファレンスを行い、発達上の問題の早期発見とその後の適切な保育に努める。

オ 職員会議時における研修受講報告の充実化を図る。

カ パート会議を実施し、情報の共有化を図る。

キ 職員を増員し産休・育休後も、安心して働ける職場体制を作る。

ク 新保育所保育指針に基づき、発達に応じた獲得目標を明確にし、質の高い保育を提供できるよう保育マニュアルを作成する。

ケ 保育士の事務円滑化の為に パソコンを追加導入する。

(6) 予算執行

ア 施設の老朽化に伴う将来の建替えや、大型修繕に備え、効率的な予算執行に努め、計画的な積立を行う。

イ 保育室内等環境の整備を計画的に実施する。

ウ ICT化（保育業務支援）を推進するため、PC 端末機を増設する。

4 その他

保育士等キャリアアップ補助の適正な執行